

第2回南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会会議録（要点記録）

【日時】 令和3年2月5日（金）開会：午後7時00分 閉会：午後9時00分

【場所】 南砺市役所 別館3階 大ホール

【出席委員】 14人

堀田 朋基 委員長	舘 英二 副委員長	藤原 洋 委員
梨谷 一男 委員	齊藤 哲也 委員	林 裕一 委員
近川 利行 委員	水戸 明美 委員	高瀬 まり 委員
砂田 英夫 委員	二野井 朋 委員	井上 明世 委員
山田 剛 委員	大河原 晴子 委員	

【欠席委員】 0人

【事務局員】

教 育 長 松本 謙一	教 育 部 長 村上 紀道
教 育 部 次 長 鵜野 幸男	教 育 総 務 課 長 氏家 智伸
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 課 長	生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 課 幹 事
教 育 総 務 課 副 主 幹 高田 公美	主 幹 石田 雅人
教 育 総 務 課 主 幹 川口 雅也	教 育 総 務 課 副 主 幹 (学 務 係 長) 野村 大輔

【傍聴人数】 1人

【協議事項等】

1. 開会 委員長あいさつ

2. 報告事項

(1) 「南砺市立学校のあり方に関する提言書」について

(2) 各委員から寄せられた意見や質問等について

3. 協議事項

(1) 生徒数の減少に伴う部活動の削減について

(2) 部活動の削減方法についてについて

4. 次回協議会の日程

5. 閉会 副委員長あいさつ

【会議の概要】

○開会

教育総務課長 ただいまより、第2回南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会を開会いたします。

1. 開会 委員長あいさつ

委員長 みなさんお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今日は、部活動のあり方検討委員会第2回目ということで、前回は、教育委員会の方針を示し、みなさんからいろいろな意見をいただきました。それに対して事務局からの回答も別冊として配布しております。それに対してみなさんのご意見もあるかと思っています。

今日は、グループに分かれて、実際に生徒数が少なくなったら部活動がどうなるかということを、まずは自分たちでシミュレーションして、論議を進めていければと思っていますので、よろしく願いいたします。

2. 報告事項

（1）「南砺市立学校のあり方に関する提言書」について

委員長 「南砺市立学校のあり方に関する提言書」が、令和3年1月5日に提出されています。事務局から説明をしてください。

事務局 【資料1の説明】

委員長 この委員会でも「学校のあり方検討委員会」の提言を基に議論を進めていかなければいけないということです。

（2）各委員会ら寄せられた意見や質問等について

委員長 第1回の委員会の後に、各委員のみなさんからたくさんの意見をいただきました。事務局の方でそれに対する回答をまとめていただきました。事務局から説明をしてください。

事務局 【別冊の説明】

委員長 今の説明について何かご意見ありませんか。

委員 質疑なし

3. 協議事項

（1）生徒数の減少に伴う部活動の削減について

委員長 今回は、どの中学校にどの部活動を残すかということではなく、おおまかなところで、実際に生徒数が減少したらどうなっていくのかということをおおまかなとこを皆さんで考えていきたいと思っています。事務局より説明をお願いします。

事務局 どの中学校にどの部活動を設置するかという各論ではなく、生徒数の減少に伴って削減せざるを得ない部活動数を、どのようにして適正にしていけばよいかという点に絞って、おおまかな方向性を明らかにしたいと考えています。

【資料2、3、4説明】

委員長 A、B、Cの3つのパターンを説明してもらいましたが、この3つのパターンについて質問等ありますか。

委員 質疑なし

委員長 このあと削減について、グループ毎に作業をしていただきますが、事務局から説明してください。

事務局 今日は、最も分かりやすいパターンBで部活動を削減した場合に、どのような課題が生じるかということについて共通理解を図るために、部活動削減のシミュレーション作業をグループ別に行います。

【資料5、6、7の説明】

委員長 作業の内容についてご質問等ありませんか。

委員 質疑なし

部活動削減シミュレーション【グループごとの作業】

事務局 シミュレーション結果について提示

委員長 各グループの結果について説明していただきたいと思います。

Cグループ Cグループで担当した学校は、大会に出場できる人数を考えたときに、10年後の生徒数と照らし合わせると、部活動を削減しなくても可能であったため、現時点では敢えて削減しなくてもいいのかなという話になりました。

時間がなくて削減できませんでしたが、方向性としては、地域での活動が可能な競技や活動は、学校の部活動として設置しなくてもよいのではないかという話になりました。

Aグループ Aグループで担当した学校は、既存の小学校段階の活動の人数を考慮して、「陸上は男女で一つにまとめる」「野球は、現在小学生もたくさん活動しており、今後続くので設置する」「同じく男女のソフトテニスを設置する」ことを考えました。「吹奏楽と美術を文化として一つにし、顧問の専門性に合わせて活動を展開する」ことを考えました。最後まで、水泳をどうするか悩みましたが、クラブチームの環境が整っています。ただ、中体連への大会出場については、課題として残ります。

Eグループ Eグループで担当した学校は、まず、地域の特徴であるなぎなたを設置しました。その他は、小学生の活動状況を考慮して、基本的には人数の多い活動を選択し、部活動設置の基準となる部活動数になるようにしました。

Bグループ Bグループで担当した学校では、今ある部活動を削減するには、根拠がないとできないということで、その根拠を見つけるのが非常に難しいと感じました。ある競技では、現在チームとして成り立っていなくても、小学校の人数を見ると1年間だけ乗り越えれば、合同チームでなくても、また大会への出場ができるという状況にあります。

このことはどの部活動でも課題になっています。では、どうすればよいかということ考えたとき、「団体戦の競技を設置する」としました。では、個人競技はどうするかということになりますが、例えば陸上競技は、クラブチームで活動し、大会へは各学校から出場している例があります。個人競技については、部活動指導員の配置で対応でき

ないかということを考えました。大会への参加のために顧問教員を配置できないという問題があると思うのですが、部活動指導員が大会登録から大会への引率まで責任をもって行っていただくことができれば、顧問教員数不足への対応ができないかと考えました。

ある部活動を削減したときに、「なぜか」ということが明確にできないので、個人競技を市で一つに集めて活動できる環境があればいいということを考えました。

無くなる競技や活動が出てくるのが課題ではなく、南砺市からある競技や活動が無くなるのは仕方がないと割り切れないと進められないのではないかと思います。もしかしたら、全ての競技や活動を残すという発想を止めなければいけないのかなとも思いました。

Dグループ Dグループで担当した学校は、現在設置されている部活動数を3分の1に削減するという事です。市内に一つしかないという競技をまず決めました。バランス的に、男子の部活動を2つ、女子の部活動を2つ、文化系の部活動を1つとしました。男子については団体競技1つと個人戦のある競技1つ、女子は団体競技1つと個人戦のある競技1つとして4つの運動部を設置しました。文化部として吹奏楽を設置しました。

委員長 結果を見ると、例えば、野球やサッカー、バスケットボールといった競技は複数校に設置されている状況ですが、みなさんいかがでしょうか。シミュレーションをしてみても見えてきたという部分があると思います。

事務局 どこの学校にも設置されていない状況になってしまう競技や活動が出てくることで、指導者の芽を摘んでしまうことになるのではないかと、逆に、複数校に配置される競技や活動を毎日指導できる地域の方が十分いらっしゃるということも危惧しています。事務局としては、市全体としてバランスよく配置し、南砺市の指導者が指導できる環境をつくる一方で、どうしてもやりたい部が就学指定校に無い場合に、校区外の入学を認める方法（C：拠点校化案）を提案しています。

委員長 全部の競技がたった一つどこかの中学校にしかなくなるということではなく、シミュレーションからも、複数校に配置されることも可能であることが分かります。ご意見ありませんか。

委員K 拠点校化案は、部活動の時間だけ校区外の学校へ移動して活動するというわけにはいかないのか。

事務局 授業終了後の移動のことを考えると難しいのではないかと考えています。

委員A 今日は委員がグループに分かれて一つの学校という立場で考え、それぞれの学校の子供たちが部活動を通して、どうあればよりよく育っていくか考えました。事務局は、一つの学校だけでなく、市全体のことを考えています。委員が市全体を考えて部活動の設置を考えたとき、総論では、全体でやればよいということが理解できる。しかし、一つの学校というように範囲が狭くなると、個々の事情が出てくるので、全員が満足できることは難しいが、どこで歩み寄るか、また、将来の子供たちのことを考えたらどれだけ広いスタンスで考えられるかということではないかと思います。

小学校段階からその競技や活動を継続して行えるという面は、部活動のほんの一部の特徴であって、同じ学校の中で一緒に学習している1～3年生の仲間と切磋琢磨して一緒に活動するというのが部活動のよさであるという部分が抜けていたと思います。その辺りを、もう少し議論した方がよいのではないかと思います。

副委員長 副委員長という立場なので、なかなか意見を言えないのですが、私見として、拠点校化をすゝるとしても、市全体を2地域に分けて地域毎に全部の部活動を設置できないのか、また、本当に部活動を減らさないといけないのか考えています。

委員長 今日、シミュレーションをやってみて、少しずつ現実問題が見えてきました。Cの拠点校化案にも課題があることも分かりました。複数の学校で設置できる競技や活動がある一方、拠点化しないといけない競技や活動があることも見えてきました。その辺りが次回の議論の中心となるのかなと思います。まずは、委員の中で意見を共有して同じ方向を向いていかないと、なかなか進められないと思います。

4. 次回協議会の日程

教育総務課長 次回の委員会についてですが、令和3年3月19日(金)午後7時を予定しております。委員の皆様には、後日ご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。

5. 閉会 副委員長あいさつ

副委員長 まとめるというのはなかなか難しいのかなと思います。10人いれば10人の考えがあると思います。それぞれの団体でも温度差はあります。所属団体でも今日の内容を共有して協議したいと思います。今日は長時間にわたり協議いただきありがとうございました。

教育総務課長 以上をもちまして本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。